JBIC　国際協力銀行　についての講演
後援者:大橋祥正氏
産業ファイナンス部門　西日本オフィス　次長

文責:関口智子
草案作成:川村由依、笠原里穂

後援者の大橋氏は JBIC において現在は産業ファイナンス部門の西日本オフィスで次長として勤められている。JBIC は日本名で『国際協力銀行』と呼ばれ、輸出･輸入･投資･事業開発金融と出資部門などに分かれている日本政府の出資の政策金融機関である。今回の講演では JBIC において原罪の沿革と日本経済の状況を DVD と共に説明があった。

日本を取り巻く環境

90 年代には大きな局は日本･EU･米であったが､現在日本の代わりに中国などが台頭してきている。日本のエネルギー自給率は 4%でありほとんどを海外に依存している。また円高が続いたことで対外純資産が約 223 兆円まで昇った。

日本企業が辿った道のり

日本の強みであった電子機器のシェア率が 2007 年に 20%を霧、2011 年には中国に負けてしまった。そして独や英の代わりに中国やインド、ブラジルが力をつけてきた。日本の技術力でいったん海外に支援をすると生産ラインが確立してしまい日本の競争相手になってしまう。

日本企業を取り巻く厳しい環境

日本には 3 万 5000 人の留学生がおり、うち 5000 人が日本国内で就職をする。また日本の少子高齢化社会において人口のピラミッドは逆三角形になりつつあり、こういう 15 歳未満の人口の低下は先進国で顕著に見られる。それに対し途上国では 20%以上の国が多く、これからの時代グローバル人材をどのように育てていくかが日本の重要な問題となるだろう。

日本企業の強み、優位性

日本の 2011 年における ASEAN と中国への投資はほぼ同じ額であった。領地問題などで中国と争っている現在でもやはり中国は日本にとって大事な輸出先であり、問題を大きく取り上げすぎることで経済界にも影響がある。しかしこのような状況下でも日本の強みがあるそうだ。それが、①炭素繊維の用途開発、②エンプラの高度化、③自動車産業における技術、④金型産業だ。これから成長しそうな国として中国、インド、タイ、ベトナムなどがあげられるがこれらの分野では高度な技術が必要なため、日本の経済界における強みとなっている。

質疑応答

Q，大橋氏の主な仕事内容はどういうものか。

A，西日本の企業の相互関係を把握し、中小企業に融資を斡旋する。また海外などでセミナーなどを行っている。

Q，留学生の就職率が低い中、グローバル人材の育成はどうしたら良いのか。

A，留学生などが日本で職に就く場合、日本語が出来るという前提がある。しかし留学生に頼るのではなく日本人のグローバル化も大切なことであり、そういう点で中堅企業は苦労している。

今回の講演は、海外に資金援助をするという点で経済だけでなく金融にも絡む話だった。グラフや表なども取り込んであり興味深いお話だった。国際関係に絡むお仕事なので多くの学生が興味を持ったと思う。